

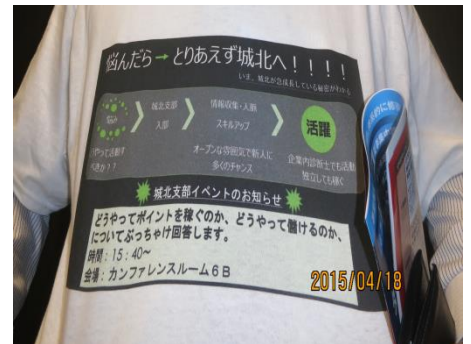
【はじめに】

4月18日（土）、春の一大イベント「スプリング・フォーラム2015」が開催されました。今回の支部イベントは、青年部が企画・運営を担当し、今までとは違ったイベント運営に挑戦しました。その結果、多くの方々が城北の部屋を訪れ、用意した椅子が不足、急遽会場に椅子を発注するほどの集客を達成しました。今回は、新年度を迎え、気持ちを新たにしたユニークなチャレンジをご紹介します。

【スプリング・フォーラム ～新しい形の支部紹介イベント～】

○発注は“新しいカタチ”

今回は、スプリングフォーラム実行委員長の鈴木先生より、「新しいカタチに挑戦して下さい」という要請がありました。部員間で議論を重ねた結果、「いい意味で緩く、入りやすい雰囲気」がテーマになりました。一方的に支部の諸活動の紹介するのではなく、新入会員の皆さんが今後どのように診断士活動をしていったらよいか、また、城北支部にどのような受け皿があるのか、といった視点での組立てになりました。



○一番知りたい疑問にぶっちゃけ回答！

協会の概要説明、各研究会の勧誘合戦を経

て、診断士活動の概要は何となく掴みつつある新入会員の皆さん。ところが、相当気になっているものの、ストレートに大声で質問する場がないのが「果たして、診断士で稼げるのか？」「ポイントを企業内診断士が取得できるのか」という疑問。支部長・部長の挨拶から始まる形式を変え、今回は、この疑問への回答から始まりました。データを示しながらのプレゼン、「企業内診断士のポイント取得」、「プロコンの平均的な稼ぎ」、「城北支部の特徴」を簡単に紹介した後、短時間でリアリティを感じてもらうため10分ほどのインタビュー動画を放映。内容は、企業内診断士からは商店街支援を中心に活動する鶴頭先生が、「残業後でもできる診断士活動」「拘束時間を最小限にできる活動の仕方」「第1歩の踏み出し方」「現在獲得している、120ポイントについて」といった内容を語り、時間など様々な制約を抱える企業内診断士が抱える不安を解消するものになりました。また、プロコンからは、マーケティングサービス会社を運営する松原先生から「診断士で広がった仕事の幅と収入」「プロコンとして仕事を切らさない方法」「城北支部での

まずは、見た目勝負！ 勧誘用Tシャツ



満員の会場



動画の上映

仕事との出会いエピソード」など、儲けるためのノウハウが語られました。

○目的別モデルコースの案内

様々な研究会等の活動を万遍なく紹介していくのではなく、今回は、プロコン・企業内と目的や目指す方向性に沿ったおすすめのコースを推薦。まず、入口としては青年部。「どう活動しているか？」と迷う事が多い新入会員の皆さんにとっては、適度に診断士歴が浅い会員と、ざっくばらんに話が出来るイベントが多いため、「とりあえず行ってみる」活動として紹介。

そして、プロコン志向の方におススメなのが「城北プロコン塾」。目玉は、約10か月かけて作成するレポート。塾生が自身で決めたテーマで、講演や出版物・コンサルタントとしての営業資料など、お金を稼ぐためのツール作成を行います。毎回の講義の際、塾長や講師の先生方、塾生同志から厳しいダメ出しを受けながら仕上げていきます。15人程の少人数で行っているため、1人1人にきめ細かいアドバイス（ダメ出し）が受けられるのがポイントで、完成後も、レポートを元に支部の研修会や各種研究会等で発表の機会があり、プロコンとしての第1歩が踏み出せるとのこと。

企業内診断士向けのおすすめが企業内診断士フォーラム。その名の通り企業内診断士が実務経験を積む機会に出会える事が特徴。商店街・地域支援・セミナーといった診断士が得意とする各ワーキンググループによる活動はもちろん、「社長1人で経営している会社

のアイデア出し」「ブログの記事執筆」など、ライトなニーズの支援にも出会えるのが特徴。もちろん実務ポイントも獲得できるとのこと。



まずは、青年部



プロコン塾紹介(左)とプロコンとして活躍する卒塾生



ポイント取得には、企業内診断士フォーラム

○最後は少人数でお悩み何でも相談

最後は目的別に、「プロコン」「企業内」「迷い中」と現在の心境別に、既存会員と少人数のグループを作ってお悩み相談。ここでは「何でも相談可!」「既存会員は本音でぶっちゃけ回答!」というテーマで行われました。時間が経過するごとに各テーブルでは打ち解けた雰囲気の中でディスカッションが行われ、たまたま来場していた既存会員が乱入するシーンも見受けられ、いい意味で緩く、ざっくばらんなワークショップになっていました。



各所で盛りあがった本音が聞けるワークショップ

外では積極的に勤しむ既存会員

【診断士による自主企画コンサート】ソロとアンサンブルの夕べ「春との戯れ」

4月25日、4名の女性診断士による自主企画コンサート「春との戯れ」が開かれました。メンバー（敬称略）は、石川知穂（バイオリン・城北）、松本恭子（オーボエ・城北）、鈴木香織（ソプラノ・城西）、諸葉子（ソプラノ・城北）、山田結花（ピアノ）。内容はなんと、バッハ・ベートーベン・モーツァルトといった本格派クラシックを10曲以上披露。その優雅で華やかなコンサートの裏側をご紹介します。



Qコンサート企画等の経緯を教えてください。

（諸）「演奏会開こうよ」という会話から始まりました。城西支部の鈴木さんと諸よ、前職が同じグループ会社で交流があり、お互いにソプラノで舞台の経験があるため、「いつか一緒に舞台上に立とう」と話をしていました。それとは別々に板診会事業で石川さんと話をしていた際、石川さんがヴァイオリンを弾いていたことを聞き、そこでも「演奏会を開こうよ」と話を持ちかけました。本格的に開催に向けて動き始めたのは、会場を決めてからです。鈴木さんオススメの会場「スタジオ・ヴィルトゥオージ」を教えてください、日程を決める段階で、出演したい人を探しました。2月後半頃のことです。何人かの声がけさせていただき、4月25日（土）で出演できるのが石川、松本、鈴木、諸の4名となり、4人で進めることになりました。2ヶ月で開催までよくできたなあと思えます。



演奏会向け 本格派スタジオ

（鈴木）私は高校時代、音大進学を志すも親の猛反対により断念し、社会人になってから趣味として10年以上、声楽の勉強をしていました。プロの音楽家の企画による一般公募コンサートや、特定の指導者による「門下発表会」などではなく、企画から運用まで自分でやってみたく、という考えが元々ありました。とはいえ、全て1人でやるには集客に自信がありませんでした。私の前職の会社の関連会社で勤務していた女性診断士の諸さんが、偶然にも声楽の趣味という共通があることを知り、「いつか一緒に舞台に出たいね」といった話をしていました。

「いつか」ということで、具体的な話が進まないようにも思いましたが、比較的業務量が少なくなると思われる春頃、一緒にやるのはどうか？と持ちかけ、実行に至りました。実現させるには、まず日程を決めて、場所を押さえることが开心だと気づきました。

Qコンサート実現にあたって困難なこと等があったのでしょうか。

（鈴木）企画ではコンサートとしてのコンセプトに悩みました。プロの音楽家ではなくて診断士の趣味としてのコンサートであることを打ち出す方が良いのか悪いのか？またプロの音楽家ではないのに、有料にして良いのかどうか？有料にするならいくらが適切か？知人にはどこまで声をかければ良いかといったことです。わかりやすいテーマを設けると良いと思い、季節的に「春の戯れ」というタイトルをつけましたが、それに合った選曲が出来るのかということも改めて考える必要がありました。また楽器の編成や最終的な参加者の人数が確定しないと選曲も難しいことに気づきました。

アンサンブルで互いに納得できるようになるには、スケジュールを調整する必要があります。会う時間がないと、とても難しいと思いました。しかしながら、「診断士によるコンサート」ということで、結果として多くの方が来て下さりました。大変ありがたいことだと思います。

（諸）はじめてのグループでの演奏会のため、曲を決める際「春」をテーマにしながらも、お互いの好きな曲を持ち寄りました。

そのため、全体的に統一性がなく、お客様が違和感なく聴いていただくために曲順少し悩みました。また、強いて言えば集客が気になっていました。



アンサンブルに向けスタジオでのリハーサル

お客様が少ないと、お客様も遠慮してしまう場合もあるため、ある程度席が埋まっているようにしたいと思いました。当日券が何枚か出たのですが、当日は席がほぼ埋まっていて嬉しかったです。

(石川) ヴァイオリンの演奏は15年ほど経験がありましたが、社会人になってからは、たまに弾くことはあっても、かなり縁遠くなっていました。今回、ほぼ8年ぶりに楽器を手にしたこともあり、練習開始直後は、首や指が攣ってしまったことが何度かありました(苦笑)。また、最初の練習時に体調を崩してしまい、思うように練習が進まない焦りもありました。諸さん・松本さん・鈴木さんには、かなりご迷惑をおかけしてしまい…。コンサートの直前期は時間をやりくりし、仕事の行き帰りに音楽スタジオにこもって練習する日が続き、何とか当日の本番に間に合いました。

また、楽器同士での演奏(オーケストラや弦楽団など)はこれまで経験があったのですが、声楽の方と一緒にするのは初めてでした。声楽は、歌われる方によって、小節毎の間合いの取り方や音符の刻み方が異なるため、初めは音やリズムを合わせるのに苦労しました。練習では、諸さん・鈴木さんに、いつも歌うテンポよりも少しゆっくり歌って貰うようお願いしたこともありました。やっと音が合うようになってきた頃にコンサートが終わってしまい、少し寂しくなりました。



度重なるリハーサルで各パートの息を合わせる

(松本) 諸さん、鈴木さんが伴奏者の手配、会場の確保、練習場所の予約、チケット・ちらしの作成など非常にスピーディに準備を進めてくださったので運営面での困難を感じる隙がありませんでした。個人的に苦労したのはアンサンブルの選曲でした。ソプラノ、ヴァイオリン、オーボエと全員が高音域担当だったことや、歌と楽器のアンサンブル経験が殆どないのでレパートリーが無いことから、特に全員が一緒に演奏できる曲を見つけることができなかつたのが心残りです。



本番会場での事前リハーサル

(Q) 今後の予定を教えてください。

(石川) 「秋にも演奏会を！」というご感想もいただき、本当にありがたい限りです。秋に向けて、少しずつ候補曲を考えています。また、城北支部内には、自分と同じくヴァイオリンを弾く方がいらっしゃるのので、ぜひ一緒に演奏できると嬉しいです。個人的にも、これを機に演奏する機会を増やそうと思います。ジャズの曲にも、トライしてみたいですね。



終演後の記念撮影

(松本) 「また次回も来ます」との嬉しい感想、用事があって当日いらっしゃれなかった人からも「次は絶対聴きにいくよ！」との声があったので、是非第2回目も開催したいです。できれば他の先生も巻き込んで、更に欲を言えば低音域を担当する人も加わって、より多彩なプログラムにしたいです。

(鈴木) 「秋も楽しみにしている」という声があり、大変うれしく思います。今回は「春」がテーマだったので、「秋」をテーマにしたコンサートをまた実現させることができれば良いと思います。

また、facebook で状況を発信したことで、仕事で関わった商店街関係の方から「地域の音楽祭の企画に関わってはどうか」という声もかけていただきました。診断士の諸先輩からは「地域のイベントに参加するなどして積極的に事業者と関わりを持つべき」と日頃言われておりますので、こういう形で活かすことができるのなら、大変光栄だと思います。

～演奏会を終えて～

(鈴木) まず何よりも、貴重な時間を割いてご足労されていたお客様には感謝いたします。

コンセプトを決めたり集客方法を考えたりする、という点においては、プロジェクトマネジメントに似ていると思いました。

今回は、今回よりもお客様も楽しめるような企画を取り入れるべく、改善したいと考えております。さらにコンサートもPDCAの視点が必要だと思いました。

(松本) 個人的な出来事もかく、診断士の仲間が音楽を楽しめたことが嬉しかったです。今回の企画を立ち上げて進めてくれた諸さん、会場や伴奏者の手配をして下さった鈴木さん、今回のコンサートに声をかけて下さった石川さん、忙しい中聴きに来てくださるお客様がいなかったら、このステージは立てていなかったと思うので、本当に皆様感謝しています。今回のコンサートをきっかけに1つの曲を通じて音楽の素晴らしさや、充実感を共有できる先生が少しずつ増えていくことを期待しています。

(諸) 演奏者は職人と同じで、結局はひとりひとりの実力があれば演奏はできます。実力を持つ個人が一緒に協力しあってこそ、演奏会が実現します。仕事と同じだと改めて思います。個人の技術や能力の維持と演奏会開催に向けてのプロジェクト運営の両輪が回れば、自然と結果がついてくるのではないかと思います。ただ、本当に感謝なのは聞きにいらして下さる方です。知らない曲が多いと思われる中、2時間耐えるなんて辛いですが、耐える演奏会から一緒に楽しめる演奏会にできるよう、あり方を変えられるよう考えたいです。加えて、次回も聞きたいと思っていただけるように。

(石川) かなりのブランクを経て、復活早々にソロで大曲を演奏することになり、正直なところ不安が大きかったです。しかし、仕事と同じで「この日まで何とかする！」と覚悟を決めると、まがりなりにも弾けるようになりました。練習初めの頃は不安だらけだったのが、終わってみると「今回は、あの曲を弾いてみたい…」と、新たな欲が出てきたのが不思議です。

また今回は、一緒に演奏する仲間が存在も大きな支えでした。「みんなのように、もっと音が出せるように弾き込もう！」と、良い意味での刺激を受けることができました。



華やかな本番のステージ

お客様から『秋との戯れ』を」とご期待の声を何度もいただきました。ありがとうございます。秋にまた同じような形で開催できればと思います。いろんなアンサンブルを楽しみたいため、ぜひ、楽器をされている方は一緒に演奏しませんか。

【参加条件】

- ◆クラシック用ホールで演奏可能な楽器の方。
 - ・金管はホールによってご出演いただけない場合もあります
 - ・電源を必要とする楽器はごめんなさい
- ◆舞台上でひとりで演奏できる方。
- ◆一緒にアンサンブルを作りたいという想いを持っている方。

ぜひ一緒に演奏しましょう。ご連絡をお待ちしております。

観賞した参加者の感想（平野修先生）

4月25日の夕刻、山手線の新大久保駅から住宅街に入り、少し歩いたところにある都会の騒騒からも若干離れた隠れ家的なスタジオで、季節の頃合いもよく、春との戯れというテーマのソロとアンサンブルのコンサートを聴きに行きました。

普段は中小企業診断士として活動されているメンバー4人がこの日は、ソリストとして舞台上に登場されました。忙しい仕事の中で、2時間に及ぶコンサートを企画、計画、練習し、その成果を披露されるというのは、並大抵の努力でできることではありません。

全部で、14の曲目があり、どこかで聞いたことのある曲がちりばめられていました。ソプラノ2名とヴァイオリン、オーボエとソプラノそしてピアノ伴奏という編成で、それぞれピアノ伴奏によるソロや、アンサンブルを歌いあげ、また演奏されました。観客のわれわれを飽きさせないその技量から表現される歌や曲はどれもすばらしく、演奏会場も広からず狭からず、年配の方からお子様までの聴衆の中、とてもアットホームな雰囲気でのコンサートでした。最後に「フィガロの結婚」から「そよ風に寄せる手紙の二重唱」と「カルメン」から「ハバナ」の2曲のアンコールもあり、新大久保の夜空に余韻を残していきました。この雰囲気の中で、今度は、観客も一緒に歌えるようなプログラムがあってもよいかもしれませんね。

診断士のいろいろな才能の一部を垣間見させていただき、また初めの一步を踏み出した、4名の先生の勇気を称えたいと思います。診断士オーケストラができるのもそう遠くない時期ではないでしょうか。

【あとがき】

先日、ユニークな社長に会いました。システム開発やデザインを手掛ける技術者の方で、仕事柄、不規則な生活を強いられ、食事の時間が浮世離れしていることにストレスを感じ、「何とかならないか」と思ったところ、なんとその社長は、食事時間を変えるのではなく、携帯の待ち受け画面上の時計の時間の速さを思いとおりに変えられ、かつ、画面の表示が、その時間と連動した太陽光の明るさを表現するアプリを“わざわざ”開発したそうです。要は、携帯を見ると、本当は23時なのに19時の気分になるのです。まだ、実用化されていませんが、時間と明るさの錯覚を利用する事で、80分の診断士試験を60分に錯覚する習慣をつけておき、本番で余裕をもてたり、本当は2時間経過しているのに、3時間経過する設定にする事で居酒屋での終電逃し対策にするほか、医療やダイエット等さまざまな分野への展開を模索しているそうです。「食事時間を変えればいいじゃん！」と最初は思ったのですが、このアプリが将来、実用化された時、「革新的な製品を開発する人は着眼点と行動力がすごいね！」という言葉をかけることになるのだと思います。楽な方へ流れず、新たな挑戦する姿勢を学んだ今日この頃でした。

★「今月の城北人」は誌面スペースの都合上、今号はお休みします。

【本誌に関する皆さまのご意見、ご要望をお待ちしております】

①皆さまがお持ちの“ネタ”を提供してください

- ・研究会・区会の活動を紹介したい、または、ご自身のセミナーを紹介したい。⇒広報部員が潜入します
- ・ご自身の特技を紹介したい。支部内の方と交流したい。⇒「今月の城北人」のコーナーで紹介します
- ・診断士としてのノウハウを紹介したいなど ⇒特集記事化します。

②皆さまが知りたいことを教えて下さい

- ・企業内診断士の活動状況が知りたい。
- ・独立するには、どうしたらいいかを知りたい。

⇒各種 特集を組んで記事を作成します。

③読者としての（批判も含め）感想をお聞かせください

- ・批判的な内容もお願いします。今後の改善に活用させていただきます。

④本誌編集スタッフ募集中

・「隙間時間にちょっと」「アイデアを出すだけ」
でも構いません。

問い合わせ先 城北支部広報部：
johoku.kouhou@gmail.com まで よろしくお願ひ致
します。

JOHOKU SHINDAN 誌 ～第6号 春のチャレンジ特集～

2015年5月16日発行

発行者：城北支部長 朝倉久男

編集者：城北支部 広報部